



「家具と身体」をテーマにしたダンスの公演「TROPE」（21日、京都市南区・ヴォイスギャラリー）＝撮影・三木千絵

# ダンス×家具

家具を前にダンスを繰り返す集団、モノクロームサーカスと、クリエーティブな関係を探る公演「TROPE」が、27日から30日まで、ヴォイスギャラリー（京都市南区東九条西岩本町）で開かれる。「便利さに慣らされた暮らしに、化学変化を」と意気込む。

京都を拠点に活動するモノクロームサーカスとgraf公演

身体の動きとの関係を探る

ダンス集団、モノクロームサーカスと、クリエーティブな関係を探る公演「TROPE」が、27日から30日まで、ヴォイスギャラリー（京都市南区東九条西岩本町）で開かれる。「便利さに慣らされた暮らしに、化学変化を」と意気込む。

京都を拠点に活動するモノクロームサーカスとgraf公演

「消費が細分化され、モノの使い方を考えなくても済む現代の生活は、人を鈍感にさせる」とgraf代表の服部滋樹さんは話す。これまでも、用途を限定せず使い手に使い方をゆだねる「余白のある」家具づくりを行ってきた。今回の新

らな

モノクロームサーカス主宰の坂本公成さんは、送られてきた家具を前に「どう使えばいいのか」とメンバーで3日間考え込んだと明かす。

「消費が細分化され、モノの使い方を考えなくても済む現代の生活は、人を鈍感にさせる」とgraf代表の服部滋樹さんは話す。これまでも、用途を限定せず使い手に使い方をゆだねる「余白のある」家具づくりを行ってきた。今回の新

▶▶▶▶ きょうから「便利さに慣れた暮らしに、化学変化を」 ◀◀◀◀

作シリーズはさらにその度合いを増したという。「作り手の意図しない使い方、動きが生まれるのが楽しみ」と期待する。

坂本さんは公演について「家具と身体の間答」と説明。「マニュアルがない世界では、直感が重要。掛け合いを通じて考えをめぐらせていきたい」と語る。

公演は各回午後7時半開演。3000円。問い合わせはモノクロームサーカス ☎075（722）2878。

（岩本敬朗）

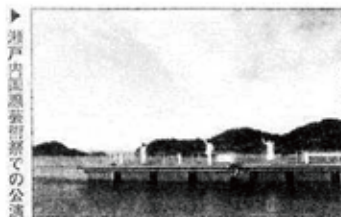


## 旅ゆけど、芝居

[全国地域演劇情報] Regional Theater Catalog

### From KYOTO

身体は世界から何を選んで生活を創造するのか——「家具と身体の間答」を見せる！  
～Monochrome Circus×graf「TROPE」～



京都を拠点に活動するダンスカンパニー「Monochrome Circus」と、建築・家具・アート・食など、暮らしに関わるあらゆるものづくりに取り組むユニット「graf」。鳥をまるごと劇場に仕立て、港や廃屋、道ばたでパフォーマンスを見せた。

瀬戸内国際芸術祭2010「直島劇場」でのコラボレーションも話題となった彼らが、再タッグ！今回は、grafの新作シリーズの道具や家具を使用し、それと身体との関係で見せていくダンス公演だ。「身体と家具の物語」を訪ぐパフォーマンスに期待したい。

（公演情報は127p）





ダンスカンパニーの「モノクロームサーカス」とクリエーティブ集団「graf」のコラボレーション公演「TROPE」の一場面(©下村康典)＝京都市南区のヴォイスギャラリー

# アンチテーゼ精神に共感

探求 につぼんの宝 3

日用品類に愛を注いだ、「民芸」と名付けた種菜畑や河井寛次郎。彼らがけん引した民芸運動に、新たな光が当てられている。大衆生産・大量消費へのアンチテーゼとして原直されているほか、民芸建築がつくり出す空間がライフスタイルの理想を示すものとして再評価されているのだ。

## 民芸運動

▼不便  
テール型の天板や十字形の脚、不安定な足し。一見、使い方が不明なそれらの物と絡みながら、ダンサーが躍動する。京都市南区で1月に上演されたダンスカンパニー「モノクロームサーカス」の公演「TROPE」は、大阪・中之島を拠点とするデザイナーらの集団「graf」の新作。

家員の発表会でもあった。「わざわざ不便な家具を作った。用海」余白があるので、使い方が次第で三、五、八センチの力を発揮するかもしれない」と話すのは、graf代表の服部直樹さん。「便利な物に閉ざれた現代人は工夫を怠れ、物を見る目や自分らしい暮らしをつくる力が衰えている。そんな社会を変えたい」。卒業時、パブル経済は崩壊して1970年生まれ、大學生のとき、20年代代始まった民芸運動を知った。「大衆生産」が始まる。外国製が紛れ込んできた。長く使えて、



「物を作るということは社会を変えること。民芸運動やイギリスで興ったアート・アンド・クラフツ運動に共感します」と話す服部直樹さん＝大阪・中之島の「graf」ビル3階のショールーム

民芸運動 民芸家の河井寛次郎が日用品類に用海を注いだ。民芸(民衆的工芸)という言葉を打ち出し、陶芸家の河井寛次郎や田中道太郎らに展開した。民芸美術部設立(1937年)を契機、独自の世界で各地の民芸家を支援した。

国への道を歩いた。地方の職人による手仕事が発達し、民芸(民衆的工芸)を推進した。1937年に「日本民芸美術部」を設立。独自の世界で各地の民芸家を支援した。



河井寛次郎記念館。民芸家の河井が自宅として飛騨高山の民家などを参考に設計。1937年に建築された＝京都市東山区

## ▼癒やし

哲学者で総合環境学研究所主任准教授の服部直樹さんも最近の民芸ブームに関心を寄せる。東京の日本民芸館や京都の河井寛次郎記念館といった民芸建築が人気なのは「個や向井が示した暮らしの癒やしや豊かさを感じているから」とみる。

ポスト民芸を模る動きも。倉沢の世紀美術館では秋、グラフィック作家の辻和美さんが「生活十五」という展覧会を打ち出し、展覧会を開催した。服部直樹さんは「民芸は決して商業を生んだ。私たちが今の時代に合った言葉を探求し、物との新たな関わり方を構築したい」と力を込めた。

## ◆展覧会開催日に掲載しています

## 使い方はアイデア次第



アイデア次第でいろいろな使い方ができる家具＝大阪市北淀川之島4

## 大阪・grafが展示室開設

家具の製作や空間デザインを幅広く行う「graf(グラフィック)」が、大阪・中之島の拠点に取り組みユニットビル館展示室「グラフィック・マウス」を開設した。現在、アイデア次第で使い道が広がる家具6点を紹介する展示「TROPE(トロペ)」を公開している。

素材は国産のナラ材が中心。青や黄など6色から塗料を塗ぶこともできる。同ビル3階では家具の使用例も紹介。スタッフの小板逸雄さんは「自分の暮らしを形作ることで、本当の豊かさを考えるきっかけになれば」と話す。

グラフィック・マウスではgrafの活動を多彩な切り口で紹介し、年5回の展示をする予定という。5月15日まで、月曜定休。入場無料。graf 06・6459・2121 (神戸千島)



## Unlabelled living

Japan [FURNITURE]

Founded in Osaka in 1998, design group graf has worked on everything from furniture and interiors to architecture and art collaborations. Its new collection, TROPE, pushes furniture in a new direction.

The assembled range might leave some initially scratching their heads but the idea is to create pieces that can be used however the owner chooses. Trestle legs can make a table; the chair (the most easily identifiable piece) can double up as a table support. The leaning poles could be for hanging clothes. "By placing it differently, or putting different pieces together or using it with other furniture, TROPE can be multi-functional," says graf's Itsuo Kosaka. Buyers can order in natural woods such as Japanese oak or choose one of six TROPE paints.

Led by Shigeki Hattori and Michio Yokoyama the designers came up with eight products and another eight are due out this month, including a wooden bench/table and a lightshade that comprises no more than a clip that can be attached to a cup or a sheet of paper to make a shade. TROPE certainly encourages creative thinking. The team is reluctant to label the products or even say what they're for – that would be missing the point. The new collection has been on display at graf's home in the Nakanoshima district of Osaka where a new event space has been added to the popular shop, showroom and café. — *FW*  
graf-d3.com

an outdoor version to its portfolio.





**UNITED ARROWS**  
お洒落の流儀

単ひとりある大人の洒落を感じる、カントリージェントルマン

「UNITED ARROWS」は、1990年代後半に創業された、日本のファッションブランド。英国の「バーネイズ・ニューヨーク」や「トモロウランド」など、海外の有名ブランドと競い合っている。その中でも、特に注目を集めているのが、この「UNITED ARROWS」の「カントリージェントルマン」シリーズだ。このシリーズは、英国の田舎をイメージした、落ち着いた雰囲気のあるデザインが特徴だ。素材も、高品質なウールやコットンを使用しており、着心地も非常に良い。また、サイズも幅広く、幅広い年齢層の男性に受け入れられている。この「UNITED ARROWS」の「カントリージェントルマン」シリーズは、大人の洒落を感じる、最高のアイテムだ。ぜひチェックしてほしい。

**BEAMS**  
お洒落の流儀

チェックの流水が生む、新・美学的着こなしのススメ

「BEAMS」は、1983年に創業された、日本のファッションブランド。その中でも、特に注目を集めているのが、この「BEAMS」の「チェックの流水」シリーズだ。このシリーズは、英国の田舎をイメージした、落ち着いた雰囲気のあるデザインが特徴だ。素材も、高品質なウールやコットンを使用しており、着心地も非常に良い。また、サイズも幅広く、幅広い年齢層の男性に受け入れられている。この「BEAMS」の「チェックの流水」シリーズは、大人の洒落を感じる、最高のアイテムだ。ぜひチェックしてほしい。

**BARNEYS NEW YORK**  
お洒落の流儀

バイヤーのセンスが光る、見過せないエクスクルーシブアイテム

「BARNEYS NEW YORK」は、1975年に創業された、日本のファッションブランド。その中でも、特に注目を集めているのが、この「BARNEYS NEW YORK」の「バイヤーのセンス」シリーズだ。このシリーズは、英国の田舎をイメージした、落ち着いた雰囲気のあるデザインが特徴だ。素材も、高品質なウールやコットンを使用しており、着心地も非常に良い。また、サイズも幅広く、幅広い年齢層の男性に受け入れられている。この「BARNEYS NEW YORK」の「バイヤーのセンス」シリーズは、大人の洒落を感じる、最高のアイテムだ。ぜひチェックしてほしい。

**TOMORROWLAND**  
お洒落の流儀

こだわりの審美眼で、貴賓の心機よきを選びぬく

「TOMORROWLAND」は、1983年に創業された、日本のファッションブランド。その中でも、特に注目を集めているのが、この「TOMORROWLAND」の「こだわりの審美眼」シリーズだ。このシリーズは、英国の田舎をイメージした、落ち着いた雰囲気のあるデザインが特徴だ。素材も、高品質なウールやコットンを使用しており、着心地も非常に良い。また、サイズも幅広く、幅広い年齢層の男性に受け入れられている。この「TOMORROWLAND」の「こだわりの審美眼」シリーズは、大人の洒落を感じる、最高のアイテムだ。ぜひチェックしてほしい。

**CONFORT**  
10

インテリアの心機よきをつくる

「CONFORT」は、1983年に創業された、日本のインテリア雑誌。その中でも、特に注目を集めているのが、この「CONFORT」の「インテリアの心機よきをつくる」シリーズだ。このシリーズは、英国の田舎をイメージした、落ち着いた雰囲気のあるデザインが特徴だ。素材も、高品質なウールやコットンを使用しており、着心地も非常に良い。また、サイズも幅広く、幅広い年齢層の男性に受け入れられている。この「CONFORT」の「インテリアの心機よきをつくる」シリーズは、大人の洒落を感じる、最高のアイテムだ。ぜひチェックしてほしい。

**graf/TROPE**

上「33」で例示した展示会の風景。部屋の隅々まで、新しい使い心地が広がる。7並み/天板「T-1」、脚に付いている「T-2」(並)「T-3」(並)はそれぞれ別売。[T-4] アルダー (オイルフィニッシュ)、W1700×D800×H720mm、¥8,300、[T-2] アラ (オイルフィニッシュ)、W375×D375×H730×H450mm、¥40,950、[T-3] アラ (オイルフィニッシュ)、W650×D370×H730mm、¥36,120、T丸「T-6」はハンガーラックなどに、ナラ (オイルフィニッシュ)、W500×D40×H1575、¥16,800。(graf) tel: 06-6459-2100 http://www.graf-d3.com/

**身体的な本能を刺激する「道具」**  
graf/TROPE 東京展示会  
写真/杉田理恵

大阪を拠点に家具、プロダクト、グラフィック、食など幅広いクリエイティブ活動を展開する「graf」。今年に発表した新ライン「TROPE」(「トロペ」の東京での発表会が7月16日・18日 333 Art Chiyodaで開催された)。

元中学校らしい懐かしい空間にまじり、建築され、積み上げられた木の板や棒。制作中の工房に迷い込んでしまったように、これらのひびひびと音がすでに無言ながら「TROPE」の魅力を伝えていた。プロダクトは、使い方の用途や形状を制限していない。椅子やコートハンガーなどの機能も見つけられるが、ユニークなアイデアがひびひびと繰り返されることで、「これは

こいつなげるとハイテクに使えるな」「椅子をうつ並べて、板を置けばテーブルになる」など、想像力を刺激する。道具というあり「TROPE」に近い存在だ。

「TROPE」は、言葉の比喩的用法」を意味する。言葉の中にあらがしめ用途が決まった家具を置くのではなく、「これらを組み合わせて、自分で暮らしをつくる。使い手によって変わる道具の自由さ」が、「TROPE」の提案なのである。

木製のプロダクトに加え、塗料や石膏の塗料などがラインナップされている。手後は照明なども加わる予定だ。



# アーティストファイル

## 制作室使用者に聞く

京都芸術センターでは、各ジャンルのアーティストに12の制作室を提供し、創作活動を支援しています。毎回1組(1人)の制作室使用者を紹介します。

今月の使用者：Monochrome Circus

制作室使用期間：2010年10月1日-12月27日



撮影：下村康典

新作『TROPE』を準備中のモノクロームサーカス。家具づくりを起点に、照明、スペースなど多岐にわたって暮らしのデザインを行うクリエイティブユニットgrafとの共同作業となります。主宰の坂本公成さんにgrafとの関わり、新作のコンセプトについて聞きました。

——モノクロームサーカスとgrafの考え方に共通する点は何ですか？

僕は、身体をどこかの空間にはめ込んでいくことを考えています。人の身体には必ずストラクチャーがあります。つまり普遍的といってもいい骨格と筋肉、そして姿勢よっての強弱や個体差です。これは家具や建築物、あるいは自然の中の木などあらゆるものに求めることができます。僕は身体を使って空間のストラクチャーを持つ潜在的な可能性を引き出そうとしてきました。一方のgrafは、家具に少しの余白を作りこみます。その余白が、お茶を飲む、人と話すなどの日常的な行為にちょっとした「ずれ」を持ちこむ。このずれによって人が何か新しい

ことを発見したり、クリエイティビティを発揮する場が用意されます。

僕らが面白みを感じるのも、椅子を椅子として使うのではなく、椅子に対する身体の常識的なアプローチから少しずつずらすことによって、家具のもつ意味そのものをずらしていくということです。例えば机なら、机の上に2人の人間がいるというあり得ない状況を生み出すことで、まるで机でないように感じさせていく。モノや空間を使う時に「ずれ」を用いる。この観点が両者の合致するポイントですね。

——新作でのgrafとの関わり方はどのようなものになりますか？

今年9月の瀬戸内国際芸術祭2010『直島劇場』では、grafにコンセプトからビジュアル・プロダクツ全般に携わってもらいました。現地での会場探し、民家を舞台に改装するなどかなり濃い共同作業になりました。今回は「問答」のような形をとりたと思っています。「コラボレーション」というと、到達するビジョ

ンに向かって世界観を一緒に組み立てていくという感覚ですが、それは前回の直島でやったこと。今回は、直島以降に生まれた疑問やアイデアを、それぞれのプロフェッションの部分での関心事は保ったまま、キャッチボールをしながら進め、舞台ではそのプロセスを断片的に見せていければと考えています。僕らが空間に対するアプローチをダンス作品にして、すでにあちらに投じていますが、その返答として今届いているのが「新しい家具」です。

——「家具と身体の間答」というテーマについて聞かせてください。

今回grafが新たに作る家具について少しいうなら、機能と余白が8対2だったものを、50%の余白で作るというもの。つまり、その家具は使い方が明示されず、使う人自身がそれを考えていきます。有用性を取っ払い、人がそれと向き合った時に「なんだこれは？」と立ち止まって考えさせるような家具になると思います。この発想は、人間とモノの関係の起源

につながっていくのかもしれませんが。例えば、フックの起源はきっと木の枝だったはずだと考えられるように、現在一般的になっているツールのいくつかは、古代にまで遡り人がプリミティブな状態で使っていたモノに行き着きます。今回の公演では、人間が石とか木の枝といったプリミティブなモノと出会って、ある行為を「ひらめいた!」という時の気分や身体感覚をもう一度味わい直すような体験ができるのではないかと思います。そこにダンスをする側からの面白みを感じています。

※『TROPE』公演情報詳細は、イベント情報(P4)をご覧ください。

### モノクロームサーカス

京都を拠点に国際的に活躍するダンスカンパニー。主宰坂本公成。「身体をめぐる/との対話」をテーマに劇場作品からコミュニケーションワークまで幅広い展開が国内外から注目を浴びている。それぞれがソロやデュオを踊りきる力量を持ちながら、コンタクトなどを活かした有機的なアンサンブルが持ち味のダンサー集団。最新作に別府現代芸術フェスティバルでの「ダンサーを探せ!」瀬戸内国際芸術祭2010『直島劇場』がある。